

僧侶

圓覺

圓覺律師傳曰諱修廣字道御姓大嶋氏伊州服部人父名廣元云云厩京兆  
法金剛院大建融通念佛又建于嵯峨清涼寺應長元年九月二十九日化

三國地誌卷之六十八

伊陽 藤堂元甫 編修

東京 川井景一 增訂

伊賀國 山田郡

鄉名

中村

按千戶真泥畑甲野鳳凰寺平田出後炊富岡中村是ヲ呼テ今中村郷ト

云古千戶真泥畑是ヲ河原郷ト云

阿波 一作淡瀬后伊賀記作粟郷

惣國風土記曰山田郡阿波郷公穀六百七十二束三毛田假粟四百七十二  
丸貢松檜橘柚樟柏熊猪茗猿狸狼狐兔鶴雉鳩茯苓松脂栗榧蕨葛等

按上阿波猿野富永下阿波川北廣瀬是ヲ呼テ阿波郷ト云

馬野

惣國風土記曰山田郡馬野郷公穀六百八十二束假粟五百七十二丸三毛田貢松脂橘柚又貢雉鳩有牧馬駿馬之牧也

按奧馬野中馬野坂下是ヲ呼テ馬野郷ト云

喰代

按喰代鷹山蓮池是ヲ呼テ喰代郷ト云

友生

按上友生界外中友生下友生是ヲ呼テ友生郷ト云

已上五郷今存在スル所也

川原 今廢

延長風土記曰山田郡川原郷土地瘦亡有旱水之患也時々出橘柑民家所用也

惣國風土記曰山田郡川原郷公穀四百七十二束假粟三百五十九丸結穀鴨鷺等

按今畑村ニ川原出ノ字アリ此地山田川ノホトリニテ水難ノ地ナレ

ハ此名アルニヤ

竹原 今廢

延長風土記曰山田郡竹原郷土地富饒而脩竹多焉亦民家所用也在郡下以

惣國風土記曰山田郡竹原郷公穀三百七十二束无假粟以横稅爲假粟貢

桑麻

按今廢ノ鳳凰寺村ニ存ス

已上三郷和名抄出ル所也

阿野 今廢

延長風土記曰山田郡阿野郷土地富饒而民用多在郡之西有神曰並日明神大足彦忍代別御宇奉崇也又曰西阿野

按阿野ハ今上野ノ東南字野島ノ地ナリ古ハ郡ノ西界ニ今阿拜郡

ニ屬ス

鳥合今廢

延長風土記曰山田郡鳥合郷在郡之東北土地廢亡焉民用少也

玉井今廢

延長風土記曰山田郡玉井郷在郡之東北土地富饒而民用多也

按今平田町ニ玉井ノ名アリ

郡今廢

延長風土記曰山田郡郷土地富饒而民用多也亦多出藥草在郡之西

川向今廢

延長風土記曰山田郡川向郷在郡之東北多出藥草亦民所用也

按平田ヨリ出後ヲ呼テ川向ト云

村里

千戸

按平家物語ニ下千戸ニ作ル今奥千戸西千戸ノ唱ヘアリ

眞泥 畑 甲野 鳳凰寺 中島平田屬邑 出後 炊

按栗田屋鋪ト云處ニ井泉アリ俗漸井戸ト云是上古 大神宮ヘ獻ス

ル所ノ御供米ヲ炊ク故ニ名クト云

富岡 中村 上阿波 汁附 元町 子日汁附以下並上阿波屬邑

東大寺古文書應仁元年曰念佛堂庄八十一町九段山田郡内 阿波保廿七町小

同新別府三町二段同召次名三町三段廣瀬村十八町淨土寺三町有丸名

廿七町三段大已上建久之頃被庄之間國杣併被押籠畢然者國內無杣者爭可遂造營哉仍造營之間可國領之由同欲被宜下矣

又元德三年日阿波庄

神鳳抄日伊賀國阿波御厨六石備用十二石量料外

猿野肥長風土記作麻志野

按村名ノ所由詳異部ニ出

富永

按曆應三年古文書富永莊云云

下阿波 川北 廣瀬

神鳳抄日廣瀬山田本御厨

按東大寺古文書曆應三年廣瀬莊云々今奈良地ノ字アリ御谷郷トアルハ今小邑三谷アリ恐クハ是ナラン

興馬野一作番野

東大寺古文書曆應三年日馬野者寺家根本十二大會并八幡宮轉容會云々又

馬野莊北伊賀分又日馬野村准后伊賀肥馬野村永閑伊賀名所記引三代將軍記日御所之御馬生

好者伊賀次郎重國自番野村所獻也其時改番野爲馬野

按笠取山ヨリ布引山ニ至ルマデ一面ノ草山ナリ宜ナリ古ヨリ牧地

トスルヲ

中馬野 坂下十樂卷記作酒下永閑記作酒解

按准后伊賀記ニ出タリ

喰代

東大寺古文書天喜四年日山田郡一處喰代村四至東限高山西限里山南限山北限谷口

神鳳鈔日伊賀國喰代御厨見勅三石

按今昔物語ニ伊賀喰代里云云

本郡神社ノ總數  
二百二十九社格  
一、就テ之ヲ區分  
メレハ、郷社ニ村  
社貳拾九無格社  
百九十八個ナリ  
郡中鳥坂神社ト  
稱スル者三アリ  
一、甲野村ニ在  
リ一、平田村ニ  
在リ一、出後村  
ニ在リ廷喜式ノ  
所屬鳥坂神社ハ

孰レノ地ニ在  
リヤ明治八年郡部  
省ノ裁可ヲ得テ  
出後村ニ決定ス  
ト知ラヌ其當ヲ  
得ルヤ否ヤ  
阿波神社  
本郡下阿波村宇  
宮谷ニ在リ、地城  
四百八十貳坪、稚  
日女神、猿田毗古  
神ヲ祭ル祭日ハ  
十月十四日神功  
皇后三年ノ創建  
ニシテ氏子二百  
五十戸ナリ明治  
十五年五月十二  
日郷社ニ列セリ

鷹山鷹高 上友生一作新尾  
東大寺古文書嘉曆三年日伊賀國友尾准后伊賀記曰、  
公田分新尾村  
界外 中友生 下友生

神祠

鳥坂神社神名帳一  
本作鳥坂

永閑伊賀名所記曰山田郡鳥坂明神鳥坂の里にまゝす直指抄云下照  
姫也

勝子内親王

い乃りてもかひこそなけれひとりねのいつもうさかの神かさ乃う  
ち

按甲野村ニ座ス土俗云神明若宮勝手明神三座ヲ祀ルト舊社地ハ鳥

坂山ノ麓ニアリ其地ヲ寶殿谷鳥居河原ト云鳥鳥文ノ似タルヲ以後  
音讀ヲ誤リタルカ

阿波神社

神功紀曰九年春二月足仲彦天皇崩於筑紫樞日宮時皇后傷天皇不從神  
教而早崩以爲知所崇之神欲求財寶國是以命群臣及百寮以解罪改過更  
建齋宮於小山田邑三月壬申朔皇后選吉日入齋宮親爲神主則命武内宿  
禰令撫琴喚中臣鳥賊津使主爲審神者因以千繪高給置琴頭尾而請曰先  
日教天皇者誰神也願欲知其名逮于七日七夜乃答曰神風伊勢國之百傳  
度逢縣之折鈴五十鈴宮所居神名撞賢木嚴之御魂天疎向津媛命焉亦問  
之除是神有神乎答曰幡荻穗出吾也於尾田吾田節之淡郡所居之有也  
延長風土記曰阿波郡阿波山有神號阿波大明神神功皇后也  
清和實錄曰貞觀三年夏四月十日甲寅授伊賀國正六位上阿波神從五位

下

又曰十五年癸巳九月廿七日己丑授伊賀國阿波神從五位上

按阿波村ニ座ス鱒口銘云阿波谷杉尾大明神文祿五年丙申五月日

又狛犬アリ至テ古雅ナリ土俗杉尾白髮明神ハ猿田彦ヲ祀ルト云紀

ニ所謂淡郡ハ當時伊勢ノ管内ニシテ即コノ邑ナリ筑紫憑談ノ神蓋

猿田彦大神ナリ今社後ニ小邑小山田アリ風土記本社ヲ以神功皇后

ヲ祀ルト云ハ筑紫齋宮ノ式ヲ擬シ中古小山田ノ地ニ皇后ヲ祀レル

ニヤ今ハ本社一座ヲ存シ小山田ノ社址ヲ失スルノミナラズ土俗阿

波神社ト云フナシルモノナシ杉尾ハ萩穂ノ轉訛セルカ

葦神社 神名帳作  
葦北一本

天平風土記曰葦神社在魚不見池邊俗云龍神

惣國風土記曰山田郡阿波郷葦神社圭田三十八束三字田所祭國常立也

和銅三年庚戌九月始加神禮如勢州加圭田有神戶巫戸等

按平松村ニ坐ス俗別府明神ハ八王子ニ稱ス九月九日上阿波子延俱

ニ祭祀ニ預ル西南龍王嶽アリ山下大池アリ蓋魚不見池是ナルベシ

已上三座並小延喜神祇式ニ出タリ

山王祠 並ニ  
鹿嶋祠 三十八社明神 並ニ  
戶村 豐松明神祠 祭神八幡  
子守勝手 神明祠 稻荷祠

泥村 並ニ  
子右稻 鹿嶋祠 村 若一王子祠 甲野 住吉祠 風凰  
寺村 植木天王 中葉  
左八王

田姬 按中村鳳凰寺甲野富岡川北炊畑真泥出後平田ノ十邑俱ニ祭祀ニ預

ル

八幡祠

惣國風土記曰山田郡山田八幡神社圭田六十二束三字田天武二年癸酉

八月十五日始祭之加圭田 所祭應神天皇世 有神家巫戸祝戸等每八月十

日

植木神社  
平田村字赤井  
在社城六百一  
坪頂佐之男命稻  
田姬命大穴牟遲  
命ヲ祭ル文永二  
年四月八日ノ創  
建ニシテ祭日ハ  
五月四日七月十  
五日十月十八日  
氏子ハ出後中村  
甲野鳳凰寺平田

富岡炊村畑村裏  
泥川北ノ十ヶ村  
ナリ明治七年五  
月四日郷社ニ列  
セラル

五<sub>二</sub>日士民折篠竹著白幣裏黔首調鼓笛等歌阿南多乃志祭之

按今土俗八王子ト稱ス古昔平田村ノ惣社コレナリト云

勝手祠出後 住吉祠炊 天滿祠富岡 初造天王 山王祠並中 八王

子祠 五社權現 天滿祠並上阿 杉尾白髮祠 山神祠並嶽 天神祠

富永 天神祠 八王子祠並下阿 杉山明神祠川北 牛頭天王天滿天

神祠 若宮八幡祠 廣明神祠 左渡明神祠並廣 馬野神社或云酒

惣國風土記曰山田郡馬野郷馬野神社圭田八十二束三字田所祭木花咲

耶比咩也持統天皇二年戊子十一月始行神禮加圭田

頓阿十樂庵記曰靈社酒下天王

永閑伊賀名所記曰山田郡酒解里並社 酒解神者直指抄云伊賀國酒解神

者大山祇神也云々冷泉御宇正二位を授られけるよと至懷抄に見へ侍

る

按中馬野村ニ坐ス中馬野奥馬野坂下三邑ノ惣社ナリ俗八王子ト稱  
ス酒下坂下ノ稱皆酒解ノ省訓ナリ今坂下ノ分邑舊馬野ノ小邑也

辨財天祠 山神並中馬 藏王權現祠相殿神明森 麻柄明神祠神明○

八幡祠稻荷大神同 白髮明神祠 白山祠 春日社 子守明神祠

將軍神森月○並 信田祠 姬宮明神祠或云結明神或云木花開 氣比

明神祠中友

延長風土記曰山田郡柄尾山有神曰柄此間七 依之所名也

按風土記闕文アリトイヘモ本邑ニナイテ舊社地コノ宮山ニレクモ

ノナレ且柄尾ノ本社ニ由縁アルヲ以記文ヲコトニ附ス

三國地誌卷之六十九

伊陽 藤堂元甫 編修  
東京 川井景一 增訂

伊賀國 山田郡

山川

真泥山

按真泥村ノ東ニアリ廣瀬村ニテ上寺山ト云

阿牟乃嶽 ○下山  
大峯山

按真泥村ノ西南ニアリ大峯ト云處ニ廢堂ノ址アリ其所由詳ナラス  
又峯ノ南ハ友生村ニ属シ龍王嶽ト云其嶽ニ井泉アリ旱魃ニ此ニ松  
明ヲ舉テ雨ヲ請フ

前山

今康岳ニ作リ高  
凡五十六丈全山  
樹木繁茂登望ノ  
勝アリ



經孫山廣瀨村  
在、高大約百丈  
余金山草多、  
樹木少、

按眞泥山ヨリ以下並眞泥村ニアリ  
畑山○鍋頭頂  
○鳥坂山

按畑村ノ東甲野村ノ後ニアリ此山ノ半腹ニ紅石ト云奇石アリ其色  
黃丹ヲヌルガ如シ山其處ヲ紅石尾ト云其北ニ八伏越ト云間道アリ  
甲野山

按甲野村ノ東ニアリ畑山ニツマク  
澤田山

延長風土記曰山田郡澤田山在郡之東北松多出名材禽獸群集有神曰澤  
田明神不知奉崇時代、

按甲野山ノ麓鳥坂山ト相並フ其谷ニ水田アリ字ヲ澤田ト云其上方  
ノ山ヲ澤田山ト云大水ノ時此溪間ノ土中ヨリ今ニ於テ良材ノ朽木  
ヲ出ス鳥坂舊社地ノ正東ニシテ風土記ニ本郡北澤田ヲ限ト云此ナ

山田山今云ニ  
東山ト

延長風土記曰山田郡山田山在郡東南也松柏鳥鹿多而土地富饒也有神  
曰事代主尊亦曰河磯城津彦玉手看御宇之時奉崇也  
永閑伊賀名所記引至寶抄曰  
了然上人

いかよせむかくまてつらき身の秋にあへて山田の山よくちなひ  
按平田鳳凰寺富岡等ノ村ヨリ領ス此山上ニ西京寺廢堂ノ址アリ富  
永村ヨリ西山神幢寺址トヨブ

火燃山○鋸峯○片裏  
山○岩坂山  
按旱魃ノ時火ヲ擧雨ヲ乞故ニ此名アリ  
鳥坂山鳥一  
作鳥

惣國風土記曰山田郡南限鳥坂山

按並ニ出後村ニアリ或云岩坂山ノ一名ト孰カ是ナルヲラズ上ニ  
舉ル鳥坂山トハ別ナリ

檜木山 檜木今  
作炊

延長風土記曰山田郡檜木山在郡之東出松竹亦有異禽

布曳山 ○權現山○多岩山○二子山  
供養山○高塚山○羅王寺山

按並ニ炊村ニアリ然レニ檜木山ト別ニ稱スル山詳ナラズ

前山

按富岡村ノ南ニアリ

河内谷山

按中村ニアリ

黒巖嶽 ○大河内山○乃幾手山○笑之谷  
○向唐櫃○馬谷○月川山

按山上ニ黒石アリ故ニ名ク山頂ヨリ五町許東ニ勢州ノ界アリ又勢

黒岩嶽

直立百貳拾丈

阿止備嶽

上阿波村ノ東南

阿波在ノ高大約

百丈此山中雲母  
石ヲ生田ス

州犬塚ニ至ル間道アリ此ニ足洗谷ノ名アリ

那須原山 ○辨天山○箱谷○高島山○地蔵谷○摩谷  
○炭竈山○柳谷○河原木山○鳩岡山○向山

按地名横尾ヨリ勢州河内村ニ至ル間道アリ又河原木山ヨリ勢州桂

村ヘノ間道アリ

雪下山 今云  
川山

延長風土記曰山田郡雪下山有郡之東北多出葛藤亦民家所用也

按北勢州加太山ニ至ル斯山岩谷ト云處一面連亘ノ岩石ニシテ甚峻山

ナリソレヨリサク山谷稍平ニシテ南北一里余東西十五六町沮澤ノ地

ナリ俗大澤ト呼フ夫ヨリ地名カケ谷ニ生スル處ノ藤牙本國ノ佳品

ナルヲ以テ貢ニ充ツ

東谷山

按山頂ヲ木落レ谷ト云此ヨリ勢州眼下ニアリ又木谷ト云處ニカウ

モリ峠ト云間道アリ勢州加太ニ至ル

西谷山 ○黒岩嶽以下  
並上阿波村

按阿波辻ト云處ヨリ上柘植愛田山畑へノ間道アリ

多古山 ○小多  
古山

按コノ山廣大ニノ山谷多レ東谷城山谷ト云伊勢國界ナリ

戸川山 ○多古山以  
下並狹野村

按雲母谷ト云處ニ方四尺計ノ雲母石アリ除外雲母石多レ

龍王嶽 ○大  
佛山

按大佛山ノ塔巖タル處蟠龍ノ形ニ似タリ七丘七谷アリ旱魃ノ時此

ニ雨ヲ乞故ニ祈雨嶽ト云

西山 ○三昧山  
○長者嶽 谷端山 ○保多  
加利山

按龍王嶽ヨリ以下並ニ富永村ニアリ

阿波山

延長風土記曰阿拜郡阿波山出松竹杉檜

按風土記誤テ阿拜郡トス今更テ本郡ニノス然レモ今阿波山ト云モ  
ノ惣號ニシテ別ニアルニアラス

笠登利山 ○小笠  
登利

按馬野三郷下阿波狹野村等ノ上方ニアリ山頂ヨリ勢和河攝山江ノ  
諸州ノ山ヲ遙望スベシ地名花タテ衛ヨリ勢州新貝村へ出ル間道ア  
リ

三谷河内山

按此山ニ赤巖屏風岩等ノ怪巖アリ

棋野山 北山 西山

按三谷河内山ヨリ以下並ニ下阿波村ニアリ

今笠取山ニ作  
高凡百七拾四丈  
山上草多ク山麓  
樹多ク此山頗  
登臨ノ勝アリ

河内谷山  
高凡百六十丈山  
上開紛春季ノ候  
菜花ヲ望ム最モ  
佳ナリ

河内谷山 川北 上山 ○高野山 井墜山 蕪鹽草作井墜山今云鳥屋尾○  
村 大邊良山 碓石山 ○猪乃窪 ○森永山 ○廣

准后伊賀記曰井關山 坂下之邑有 千餘束之領也  
夫木集曰井せき山 河内 百首歌 光俊朝臣

和歌藏玉集曰 天の河るせきの山の高根より月のみふねの影そさしこす  
基俊

ほし合の月はるせきの名よかゝるやまこそ八十の舟つなくらん  
新續古今集驛旅に 道命法師

なかれいつる泪はかりをさきたてゝるせきの山をけふこゆるかな  
至寶抄 雅永

けふとのみるせきの山のはし紅葉かけてちさらん星合の空  
按廣瀨村ニアリ此山ノ前山ヲ俗井セキ山ト云其前山ニ城墟アリ俗

高凡百四十四丈  
頗シ難登ニ宜シ  
向山  
高凡百八十八  
丈山 櫻樹葉茂  
シ登スルニ難シ  
只草ノ生ス  
佛向山  
高凡百丈余全山  
岩石ニシテ榛

下馬野山 ○大千本 向山  
○小千本

按並ニ馬野村ニアリ布引山ニ續ク此山ニ地名堂前佛向背谷腕谷等  
ノ名アリ是俊乘阿波大佛ヲ造刻スルノ時其材木此地ヨリ出スト云  
字皆佛像ニ因ル

布引山  
按馬野三郷下阿波猿野等ニカノル大山綿延トシテ布ヲ引カ如シ故

標者アリ建仁二  
年僧俊樂一寺ヲ  
創スルノ際此山  
岡ニ在リ佛像ノ  
彫刻ス  
布引山  
高六約三百六十  
丈山上爽湖勢伊  
二州ヲ俯瞰スヘ  
シ

北真山  
高凡百丈

三國地誌

ニ布引ト云字地藏尾ヨリ峯ヲ界フテ勢州トス山頂ニ箕賣塚ト云處  
アリ勢州ノ國界ナリ又狼辻越ト云勢州谷袖へ出ル間道アリ又小豆  
尾谷ヨリ勢州一坂へ出ル間道アリ是ヲ鬼越峯ト云

北真山 飯盛山 經塚山

按共ニ坂下村ニアリ

木代山

今ハ  
喰代ニ

延長風土記曰山田郡木代山多出松杉在郡之東南亦出茯苓柴胡

按イツレノ山ヲサス今詳ナラス

登尾山 七尾山

〇具足山〇長坂口〇禰師山

遠峯山 〇狸尾〇  
昆沙門山

按此山ニ永保廢寺ノ址アリ木代山ヨリ以下並ニ喰代村ニアリ

峯山

〇大島山〇田螺山〇大  
尾山〇殿治峯〇笹尾山

嶽山

按並ニ鷹山村ニアリ

横尾山

〇水晶尾〇  
富平山 祇園山 〇休  
葛山

按並ニ蓮池村ニアリ

川南山 大迫山 水晶山

按字古野水晶尾ト云處ヨリ水晶出ル川南山ヨリ以下並上友生村ニ

アリ

北山

按界外村ニアリ

龍王山

按山頂ニ池アリ龍王池ト名ク池中ニ石浮屠アリ旱魃ノ時此ニ雨ヲ

祈ル北ハ眞泥村ニ属ス

南山

按並ニ中友生村ニアリ

西敷山  
山田郡ノ北方ニ  
アリテ連山中ニ  
挺立ス金山菅草  
生テ樹木ナシ  
頂上突出高凡六  
十丈四圍開豁阿

三國地誌

四十八

拜山田二郡ヲ俯  
瞰スヘク

市部山

在二郡之  
東北

里山

在二郡之  
東北

大木山

在二郡  
之東

按以上ノ三山延長風土記ニ見エタリ今此名亡テ詳ナラズ

巖洞

俗云  
巖

按千戸平田鳳凰寺喰代等村處々ニアリ

鳴石谷

按斯山ニ鳴石アリ故ニ名ク並ニ千戸村ニアリ

桔梗谷

按字大岩ニ奇巖アリ方十五間並ニ猿野村ニアリ

阿波野

萬葉集曰雜挽

鏡成吾見之若乎阿婆乃野之花橘之珠爾拾都

按今野ト云ヘキ處ナレ阿波社ノ前一面ノ平地ナリ古野ナルカ不詳

大川

延長風土記曰山田郡大川在大木山麓無魚類而民用少也

按源上阿波村字那須谷ヨリ流レ平松富永下阿波川北中村平田畑村

等ノ間ヲ歷下ハ阿拜郡服部川ニ入或阿波川ト云或山田川ト云皆其

地名ニヨル

上阿波溪

惣國風土記曰山田郡阿波川出結鱧等出怪石官家取爲石帶之具故每歲

取之送本省

按事上ニ見エタリ今所謂怪石ヲ出スヲチキカス但廣瀬川ニ蛇ノ枕

石ト云奇石アリ俗コレヲトフク石ト云長サ九尺幅六尺斗古ヨリ

洪水ノ變アリトイヘモ所在ノ地ヲ動ズト云

山田川

山田川  
源上阿波村那

須原山ニ發シ西下シテ足谷川笑輪谷川及高良城島川于日谷端ノ諸細溪ヲ集メ西附ニ注流シ廣瀬村ニ抵リ馬野川ヲ併セテ西北ニ向ヒ畑村ニ抵リ甲野川ヲ受ケ更ニ西流シテ阿拜郡ニ入リ麻都川トナル源委凡六里

惣國風土記曰山田郡山田川出經鮪結鴨鷺等

按山田村ノ南ヲ流ル故ニ此名アリ上ニ見エタリ

爾保川 今云河原木溪

延長風土記曰山田郡爾保川在郡之東有洪水之難

按源魚留峠ヨリ流下阿波溪ニ入今魚留峠ノ下ニ爾保畑ノ字存ス風

土記ニ山田郡東ハ爾保川ヲ限トアル今即チ然リ

箕谷川

按源伊勢國界馬屋谷ヨリ流シ字横尾ト云處ニテ阿波溪ニ入

嶋谷川

按源勢州加大境ヨリ流シ戸石ト云處ニテ阿波川ニ入

子日溪

按源勢州境蝙蝠峠ヨリ流シ平松ニテ阿波川ニ注ク

多古谷川

按源猿野村甲野間道ヨリ流シ大川へ入

馬野溪

按源馬野郷布引山伊勢國界字ナハダ大河内ノ二溪ヨリ流シ岩馬野

ト云處ニテ中馬野川ト會シ廣瀬村ノ間ヲ歴大河へ入其溪流ノ間馬

野泉水原ト云處ニ堅一丈横七尺バカリノ奇石アリ除外其邊怪石多

妹背川

按喰代村字南廣ノ田間ヨリ出蓮池村ノ南ヲ歴上友生村へ流ル土俗

百地氏夫婦ノ事ヲ傳フ

細谷川

按伊賀郡妙樂寺村ヨリ出鷹山村字トントヲ歴坂下村川ト合シ摺見

友生川  
源ヲ坂下村ニ發シ西流シテ廣瀬村ヲ併セ阿拜郡ニ入リ久米川トナル源委三里三十一町瀧ノ最淵ニ處一町

へ流ル

岩坂川

按源喰代村字岩坂ヨリ流レ平田川ニ注ク

中川 半田川 角合戸川

按以上三川甲野村ニアリ

合戦川

按源千戸村字鳴石ヨリ流レ下大川へ入ル是生々光院法例ノ相論ニ

依テ山法師軍勢ヲ催シ挑ミ戦フ故ニ此名アリト云

竹尻池

真泥

湯舟谷池

鳥居河原池

並甲野村

馬野大池

或云七池

按笠取山ノ頂ニアリ今ハ水涸ヲナシ土俗ノ口碑ニ古大蛇此ニ栖ケ

ルカ上天シテ後此池荒廢スト云惣國風土記ニ 天武天皇御宇馬野

大池ヨリ神龍化來スルヲナ載ス蓋シ此ヲナラン事新大佛寺ノ條下

ニ辨ス併セミルベシ

玉井

延長風土記曰山田郡玉井郷在郡之東北土地富饒而民用多也

按山田驛上町南ニアリ亢旱ニモ涸レヌ

二子井

按喰代村權塚北字青木ニアリ今ハ亡フ

蛇木井

按鷹山村ニアリ權塚ノ古事ヲ傳フ其水清澈ニシテ四時涸レズ



三國地誌卷之七十

伊陽 藤堂元甫 編修  
東京 川井景一 增訂

伊賀國 山田郡

關梁

平田驛 又云山田

惣國風土記曰山田郡山田公穀七百八十二束三毛七字田假粟百七十五丸六畝田貢松檜杉樟檜鶴鴨鳩雉熊鹿猪狸狐兔猿狼蕨茯苓松脂松麥等

准后伊賀記曰山田郡平田

平松驛

按上阿波村ニアリ古昔ハ字佐目原ニアリ中古九町ニ移レ度々火災

今平田村ト云郡ノ西北部ニ在東四拾四町南北貳拾町戸數百六拾五人口七百四拾其民農耕ヲ務ムト雖モ商業ヲ業ムル者少ナカラズ一ヶ年間商賣金高七千五百田内外トス今上阿波村ト云

郡ノ東北部ニ在  
東四拾六町  
南北六拾六町  
四町戸數百九拾  
七人口八百八拾  
三居民専ラ農業  
ヲ務ムト雖モ兼  
テ商業ヲ營ム者  
アリ又山間ノ民  
群炭ヲ賣トスル  
者多ク之ヲ上野  
及ヒ伊勢京坂諸  
地方ニ運キ以テ  
生活ヲ爲ス一ケ  
年間商業金萬三  
千六百山内外ト  
ス村ノ西方市坊  
相連ル所俗之ヲ  
平松宿ト云

アルヲ以テ元祿十年今ノ地ニ置ク

山田土橋 山田石橋

按俱ニ官道山田川ニ架ス

上阿波土橋

按官道阿波川ニアリ

猿野土橋

按官道多古谷川支流ニアリ

富永土橋

按官道大川ニアリ

殿舎

平松公亭

按平松驛ニアリ

陵墓

經塚

按鳳凰寺村ニアリ里俗是ヲ 天智帝ノ陵ト云其兆域甚々帝陵ニ似  
ズ本邑宅子ノ事蹟アルヲ以モレ 天智帝ノ薦福ノメシ佛經ヲユ  
ニ納ルヲ以口碑トナルカ

紀伊國連墓

延長風土記曰山田郡郡郷昔曰紀伊國連所葬也

按今所在詳ナラス

一品親王墓

頓阿十樂庵記曰一品塚酒下の里にあり其名くハヒからす一品親王と

所の人はいへり

按坂下村ニアリ地名王塚ト云大友王粟津ノ敗山前ニ殂シ玉フヲ  
記ス外戚ノ所由ヲ以、ニ奉葬スル歟一品親王墓トハ土俗ノ口碑  
ナリ

信太義廣墓

東鑑曰、元暦元年五月十五日伊勢國馳驛參著申云去、四日波多野三郎大  
井兵衛次郎實春山内瀧口三郎井大内惟義家人等於當國羽取山與信太  
三郎義廣合戰殆及終日爭雌雄而遂獲義廣之首、義廣屬義仲、義仲滅後又  
逃亡而今被殺云々盛衰記補闕云案、盛衰記第四十一云、元暦元年六月朔  
日、齊院次官親能於、双林寺、捕獲義廣、末子義廣也、未、知、  
何人也、亦無所考、信太、三郎者、謂平家朝、  
之義憲、東鑑系圖作、義廣、是為義、三男也、  
平家物語八坂本曰、志田三郎先生義憲ハ伊賀下千戸の山寺にこのひてあ  
りと聞へしかば服部の下司服部平六正綱此よしを聞頓て其勢二百餘

騎のかりにて押寄せ関を作る義憲ある坊ありけるかさしつめ引詰  
射けるよ寄手をほく射殺す矢種つきけれハ坊火をかけて自害する  
正綱煙をしつめて焼首をとる平六義憲ハ首を持て鎌倉より下りけれハ  
勳賞として本領服部を返り賜りぬ長門本云伊賀とさして落ゆさける  
平六山路と見るよ所ハ太刀腹罷  
脱捨て深山に隠れぬる○終に自害を其首損せぬやム  
よとて腦を出して遺棄して味附をこめて鎌倉へ下る  
大系圖曰、義憲暫、經廻伊賀國之間爲頼朝卿仰付、當國住人服部六郎時定  
於彼國千戸寺被誅之時、自害

大日本史曰、源義廣初名義範、玉  
梅壽永二年元暦元年頼朝使弟範頼義經討義仲、義仲

使義廣將三百騎防之、於一口兵敗奔竄東鑑諸本  
平家物語五月與波多野泰通大井

實春等戰于伊勢羽取山敗死東鑑系圖爲義範、子曰、名義憲、稱志太、三  
郎、文治元年任伊豆守、後從義經、走西海、尋、置

居伊賀、頼朝命服部時定、攻之、義憲自殺、盛衰記亦曰、文治元年、志太、三郎、義憲  
任伊豆守、而不、其從、義經、唯、與、本、平、家、物、語、說、興、系、圖、同、義、憲、或、作、義、範、或、說、  
致、今、據、百、鍊、紗、東、鑑、文、治、元、年、源、氏、六、人、任、官、中、有、義、範、爲、伊、豆、守、考、尋、卑、分、原、  
山、名、系、圖、時、任、伊、豆、守、者、新、田、義、重、子、山、名、三、郎、義、範、而、非、志、太、三、郎、也、義、廣、初

名義範故系圖盛衰記述以山名義範誤為志太義範而其從義經者伊豆右衛門府有綱有綱後臣居大和時定攻之有綱自殺是伊豆守仲綱子而義經之塔也尋卑分脈為伊賀系圖平家物語傳聞仲綱蓋由此也義廣見後既在其前義範終朝世仕在鎌倉無黨義經之理盛衰記又曰元曆元年六月中原親能捕為義之季子前美濃守義廣此乃東鑑所載忠太三郎也今詳事其異同以備考索

按今佛光寺ノ境内ニ石浮屠アリ苔蘚甚原レ土俗其所在ノ便ナラサ

ルヲ以他處ニ移シタルニ動搖ノ異ヲ示スヲ以復故處ニカヘスト云

即是ナリ且舊記ニ羽取山ヲ以伊勢トスルモノハ一傳ノ謬リ因仍

皆誤ル所謂羽取山ハ寺田村ノ上方岡山是ナリ本邑ノ西南ニアタリ

山脈相ツレケリ彼ニ戰死ノコトニ葬ムルナラン

妙覺荒墳

按以上千戸村ニアリ妙覺ハ平維盛ノ子所謂六代也字六角堂ニ石浮

屠ノ跡石アリ土俗相傳フ六代御前ノ墓ト是非ヲ詳ニセヌ

山田惟之墓

俗呼云

鳴塚一名草塚ト云耳

數凡百九十八坪  
塚上雜樹茂生老  
松一株アリ千年  
外ノ物ト云里俗  
傳ヘテ弘文帝ノ  
殿ト云或ハ老子  
娘ノ墓ト云或又  
阿雅皇女ノ陵ト  
近來塚傍ノ田圃  
ヨリ土器御類數  
品ヲ掘出ス  
按今塚形ヲ觀  
ルニ山田惟之  
如キノ墓ニ  
ルニカラス蓋  
シ必ス貴族ノ  
陵墓ナラン

按鳳凰寺村ノ東ニアリ東西廿間南北十間バカリ松生ス洞穴アリ深

サ三間横九尺相傳フ山田小三郎惟之墓疾病アルモノ此ニ禱リ弓矢

ヲ以テ賽ス

佐々木秀義墓

准后親房記曰宇多天皇御子敦實親王一品式部卿男從一位左大臣雅信

其男參議左太辨扶義其子從五位下左近將監者始住近江國佐々木因號

佐々木源太夫給近江三郡其子季定者隨八幡太郎義家下陸州有戰功佐

々木源太夫号常惠冠者其三男佐々木源三秀義者源為義之親子也保元

平治軍中其譽多壽永三年七月十九日於伊賀國山田郡平田城武勇甚勵

老骨負痛手死于時七十三歲則自關東被定當代第一勳功御感之餘伊賀

御免築墳墓云云此地山田郷新大佛寺也

按富永村字五水谷ノ山頂ニアリ俗呼テ佐々木塚ト云方三尺ハカリ

ノ石函アリ又經塚アリ

### 大江公通墓

按廣瀨村井關山西ノ禁字基ノ尾ニアリ

### 櫛塚

廣云式部塚

按土俗ノ口碑ニ昔此里ニ百地某ト云モノアリ京官ニアリシトキ相  
カタヲフ婦女アリ百地本國ニ歸ル彼モ亦慕テ此國ニ來リシテ百地  
カ妻之ヲ妬ミ家ノ子ニ命シテ是ヲ害セシム百地カヘリテ其ヲ尋  
メレヒ秘シ言ハズ彼妾カ飼處ノ犬アリ百地ヲシテ其地ヲシテシム百  
地其地ヲ鑿テ其骸ヲ得テ大ニ悲泣シ改葬シテ櫛華ヲ供ス其木生ヒ  
ツク故ニ櫛塚ト云又永閑記ニハ 白河院ノ御宇式部丞朝行ガ墓ナ  
リトイヅレカ是ナルヲシレワス

### 荒墳

按眞泥村ニアリ呼テツブチ塚ト云

### 藤野墳

總國風土記曰山田郡北限藤野墳

按所在詳ナラス

### 梵刹

生々光院 寂照山佛光寺  
又云清淨院

東大寺古文書曰建長七年五月伊州清淨光寺住侶重阿彌陀佛敬白請  
殊蒙十方檀那廣恩寺內修種々善根狀右當寺者覺辨聖人經始靈地也彌  
陀兩足之爲本尊也又云山田郡之內有往生院又云願主平朝臣後注云肥後光國定  
也 之靈心云々

按藏王權現長一寸八分石櫃ノ中ニ安ヌ十樂港記靈社ノ數ニソナフ

本郡寺院ノ總數  
三十四宗官ニ就  
テ之ヲ區別スレ  
ハ實洞十八具  
六興宗四隆濟三  
淨土一日蓮一天  
台一個ナリ  
當今廢絶寺院  
生々光院 報  
恩寺 淵之庵  
西之庵 福  
傳寺 妙雲寺  
觀音堂 西

聖寺 觀音寺  
 大藏寺 桂  
 雲寺 平橋寺  
 正蓮寺 遊  
 性寺 慈眼寺  
 慶正寺 廣  
 德寺 觀音堂  
 彌陀堂 一  
 向道場 寶泉  
 寺 阿彌陀寺  
 東光寺 福  
 壽寺 大日堂

ル山田、藏王是ナルヘン寺院モト台嶺ノ末刹ニシテ結構巍然タルニ天  
 正ノ兵火ニ鳥有トナリ又慶安年間農夫コノ寺域ヲ斫カヘシテ一楨  
 ナ獲タリ於是僧惠教一字ヲ建テコレヲ安置ス莊嚴舊貫ニ仍ルト今  
 云古昔ハ別ニ社頭ヲ構ヘタルヤ又コノ院中ニ安スルヤ其詳ナルヲ  
 考ヘカラス

地藏寺 千戸山○  
 並千戸村

按舊記云千戸山生々光院本堂ハ地藏客殿庫裏鍾樓石塔二王門伊賀  
 亂破滅ス今本寺ニ千戸山地藏寺ノ名アレハ是恐クハ生々光院ノ子  
 院ナラン

報恩寺 蓮極山 十念寺 上品 瀧之菴 西之菴 並國 二桂寺 妙藏寺  
 本妙寺 今廢村 安養寺 等岳山 極樂寺 屯峯 福傳寺 並甲 藥師寺  
 ○鳳凰寺村

半大門ニ在リ寺  
 城一千三百七拾  
 八坪圓有宗寺傳  
 云建久八年源  
 賴朝ノ創建ニシ  
 テ僧俊乘ヲ開祖  
 トス

按里俗相傳フ 聖武帝ノ創建ニシテ 帝コ、ニ行幸アリ乃北八大  
 寺ノ一ナリト云古伽藍ノ礎石今尙存ス

妙雲寺 植木山文 專稱寺 西教山 正明寺 涼泉寺 月照 明照寺 平田  
 觀音堂 並平 萬像寺 森羅 西堂寺 淨邦山又西法 法幢寺 慈雲 長  
 德寺 觀音寺 大藏寺 池邊山圓明 新堂寺 古溪 桂雲寺 月峯山  
 本願寺 上野 平松寺 正蓮寺 蓮性寺 並本願 慈眼寺 馬谷山○並  
 慶正寺 高尾 廣德寺 奥之山○ 新大佛寺 五寶山東坊  
 本尊釋迦 密記曰立像長二丈五尺  
 脇士 今立像長各一丈六尺  
 俊乘影像 自所彫刻ト云  
 巖穴 高三間橫五間  
 巖中地藏ヲ彫ル是俊乘ノ所刻ナリト云

什物

舍利毘沙門地藏閣浮檀金、觀音皆俊乘入宋ノ時持歸ト云

千体佛、印板一枚

俊乘所形印佛一千三十六版尾書曰建仁三年九月十五日遣東大寺大勸進大和尚以下三四字許磨滅

坊址

曰空坊曰光坊曰巽坊曰松木坊曰隅坊曰岩坊曰久保坊曰寶藏坊曰池坊曰風如坊曰岡坊以上十一坊地名ニ存ス

總國風土記曰山田郡神龍寺寄田三十五丸二字田元明天皇和銅三年庚

戌二月十五日勝藏比丘始自百濟國持涅槃盤供命之尊像藏此院号神龍寺

者天武之御宇自馬野大池神龍化來此寺成小童助早田自此有此名

按大佛山自カヲ蟠龍ノ形勢アリ故ニ龍王嶽ト云寺ヲ古神龍寺ト云

俊乘ノ木像アリ旱魃ノ時土俗此像ニ雨ヲ祈レハ馬野山ヨリ雲ヲ起

シテ必其驗アリ故ニ土俗ノ説ニ馬野ハ俊乘ノ故郷ナレハ實ハ泉洲桑原邑ノ

産ト必彼地ヨリ雨ヲ施スナリトテ是ヲ俊乘雨ト云是モト風土記ニ

所謂神龍ノ化功ナルヘケレハ必雲氣ノ馬野山ニチユルヲ俊乘ノ故

郷ナリト凝信スル處ヨリ土俗ノ精神此像ニアツマリテ其感アルナ

ルベシ神龍ノ大池ハ笠取ノ山頂ニアリ

鎌倉實記引或記曰建久七年新大佛寺建立伊賀山田郷俊乘房重源幻住

同八年七月十九日供類之時其式奈良東大寺三分一也棟梁之面爲佐々

木源三菩提大檀那源二位賴朝野木四郎左衛門高綱

按土俗相傳フ中古大雨ノ時山豎崩レ堂舍佛像悉ク破裂シテ土中ニ

埋没スタ、本尊ノ頭ト手ノ殘レルニ因テ後世コレヲ修補シテ今ノ

如ク石座ノ全像トナス古佛首ノ内ヨリ長五寸二分ノ白銀佛二寸五

分ノ舍利塔經文香木等ヲ出スト云寺院モト佐々木秀義ノ薦福ノタ

メ建久年間賴朝卿ノ建ル所ニ俊乘ヲ開祖トス今存スルトヨロハ

東坊ノミ

東光寺

惠日山○並富永村

神幢寺

護法山

長泉寺

湯布山

正覺寺

轉法輪山

觀音堂

按堂ノ側ニ榎木アリ俗コブ榎ト云牛疾病アルトキ猿ノ形ヲ作り之

ニ掛ノハヨク其病ヲ除クト今ハ亡

藥師堂 並ニ下阿波村 威德寺 川北山

按舊勢州家所村ニアリ傳法寺ト云五世ノ法孫青山此ニ移ス

一向道場 並ニ川北村 廣德寺 月峯山〇廣瀬村 林溪寺 奥馬野村 極樂寺 壽育山〇坂下村 永

寶寺 東峯山觀音院

按本尊觀音古佛 聖武天皇ノ創建ニシテ永保年間 白河院ノ勅ニ依

テ永保寺ト号ク後世寶ノ字ニ更ム天正六年本國ノ諸士施入簿ノ殘

開アリ高井將監カ筆スル所ナリト云天正ノ兵火ニ塔舍悉ク亡テ今

存スルモノハ後世修スル所ナリ

青雲寺 龍玉山 正光寺 並ニ喰代村 高德寺 如龍珠山〇麻山村 蓮生寺 善堤山〇蓮池村 大

龍寺 信田山金剛院 寶泉寺 大龍寺子院〇上友生村 西光寺 金輪山 阿彌陀寺

按境內ニ弘法關伽井アリ

東光寺 並ニ界外村 見德寺 極樂寺 並ニ中友生村 大日堂

按日丸長者護持佛ト云

正福寺 並ニ下友生村



三國地誌卷之七十一

伊陽 藤堂元甫 編修  
東京 川井景一 増訂

伊賀國 山田郡

古蹟

廢彦名社

惣國風土記曰山田郡川原郷彦名神社圭田八十束所祭少彦名也大廢二  
年始加神禮

按川原ハ畑村ノ舊号ト云ヘ此社地詳ナラス

宅子父郡司某第址

永閑記引國分曰山田郡ノ御所の内とて大なるかまへ侍ることゝはむか  
し此國より采女をたてまつりける此國の郡司の娘成けるに宅子姫と

一本皇子ノ皇女  
ニ作リ下亦皇女  
ニ作ル

云あり天智帝よつかへ奉りて御子三かたれいします一かたれ大友皇子一かたれ阿閉皇子一かたれ阿雅皇子とそ申ける伊賀采女といひしも此事也郡司程なく徳つきて後にいみじき長者のやうになりて此國より子孫も猶するくまでも侍ると云

按鳳凰寺村ニアリ

大友王城

准后伊賀記曰城村之内山田郡ニアリ大友御在城之所也城村權現大友ナマツルトコロナリ

按亦鳳凰寺村ニアリ西東ニ城墟アリテ其山ニツゞキ住吉ノ社地アリ又其上ニ經塚山アリ其山ノ麓ヲ呼テ森ト云是至尊ノ御車ノ通ヒレ處ナリト

福川堡

按千戸村ニアリ福川牟藏之ニ據ル

瀧野堡

按眞泥村ニアリ

平田城

源平盛衰記曰壽永三年七月十九日伊賀國山田郡住人平田四郎貞繼法師ト云者アリ是ハ平家ノ侍肥後守貞能カ弟也平家西國ニ落下テ安堵シ給ハスト聞エケレハ日頃ノ重恩ヲ忘レス多年ノ好ミヲ思テ當家ニ志アル輩伊賀伊勢兩國ノ勇士ヲ催シ平田城ニ衆會ノ謀叛ヲ起シ中相傳恩願ノ好難忘ノ思立ケル志ハ衷ナレモ大氣ナシトソ覺ヘタル三日平氏ト笑ケルハ此ノ也

按山田下町ノ西北ニアリ呼テ平田ノ城ト云

米野氏堡 菱野氏堡 箸尾氏堡

平田村ノ東北宇  
古城ニ在リテ東  
堀西堀ノ名稱アリ  
トト雖モ今昔田  
圃トナリテ判然  
其形跡ヲ存セス

按慶長初年豊太閤ノ命ニヨリテ箬尾半三郎之ニ據ル二千五百石ヲ領ス以上平田村ニアリ

岡山氏堡

按岡山上野居守

菊山氏堡 重本氏堡 永井氏堡

按字獨鈷山ニアリ永井内膳居守

出後氏堡

按字道場山ニアリ出後八兵衛居岡山以下俱ニ出後村ニアリ

栗田氏宅址 越中某宅址

按俱ニ炊村ニアリ

井上氏堡

按井上彌右衛門安氏居守

長持氏堡 岡嶋氏堡 山田氏堡

按井上以下俱ニ中村ニアリ

別府氏堡 安岡氏堡 奥氏堡 三井氏宅址 池田氏宅址

按以上上阿波村ニアリ

某氏堡 重瀬氏堡 江村氏宅址 堀内氏宅址 福地氏宅址 大平氏宅址

按以上猿野村ニアリ

小野氏宅址

按小野彌右衛門居ル

竹野氏宅址

按二處アリ一ハ竹野信濃一ハ竹野備後

富野氏宅址

按富野小右衛門居ル

須曾野氏宅址

按須曾野余吉居ル

北村氏宅址

按柘植氏族北村三太夫居ル小野以下並ニ富永村ニアリ

阿波氏堡

按服部ノ氏族阿波越後居守

植田氏堡

按植田豐前光次居守天正年間兵乱ノ時評定衆ト稱ス十二人ノ一人也ト云長野峠ニテ織田信雄ノ兵ト戦ヒ柘植三郎左衛門ヲ撃取天正九年三州へ退去脇坂甚内安治本國ノ宰タル時歸住ノ豊太閤伏見在城ノ時本國ノ諸士ニ代テ往テ其事ヲ勸メ小刀ヲ賜フト云

奥山氏堡 奥氏宅址 廣田氏宅址

按阿波以下並ニ下阿波村ニアリ

大江公通故城

按川北村字加牟志也宇山ノ頂ニアリ相傳フ公通九州ノ戰ニ利アラ

ス山田ノ中村ニ流罪セツレ本郡ニテ終ト云此ニ居守ヌル歟

瀨田氏堡 丹波某堡 序田氏堡

按以上廣瀨村ニアリ

福持九郎宅址

按馬野前司カ裔孫九郎元乘居ス

福岡氏堡 高峯氏堡 内田氏堡 山岡氏堡 山下氏堡 勘解由某宅

址

按以上中馬野村ニアリ

百地丹波堡 喰代氏堡 田丸氏堡 奥氏堡 細倉氏堡

按共ニ喰代村ニアリ

鷹山氏堡或云北原 高井將監宅址 金山氏宅址 増田氏宅址 福矢氏宅

址 和田氏宅址 大久氏宅址 嶋治氏宅址

按俱ニ鷹山村ニアリ

吉田氏堡 脇田氏堡 上山氏堡 村井氏宅址 西岡氏宅址

按俱ニ蓮池村ニアリ

澤氏堡

按上友生村ニアリ城主某氏故アツテ族滅ス依テ和州宇多郡澤城主  
立蕃頭小倉盛晴二男源六盛明後号源内ヲ招テ城主トス此ニ於テ小倉ヲ  
更テ澤氏トナル小倉氏ハ其先平相國ヨリ出テ飛蝶トビテヲ家紋トス盛明  
從父小倉主税共ニ此ニ住ス天正ノ乱ニ織田氏ト戦ヒ終ニ城ヲ拔カ

日野地氏宅址 濱地氏宅址 金澤氏宅址

按俱ニ界外村ニアリ

田中氏堡井宅址

按中友生村ニアリ天正乱ノ時田中藤十郎之ニ據ル

泥田森

按真泥村ノ田間ニアリ平氏ノ一族ノ墳墓ナリト云崇リアルヲ以テ

小祠ヲ建テ八幡宮ト稱ス今東手明神ノ社地ニ遷ス

穴師森或云千森

按永閑記ニ風土記ヲ引テ穴師明神ヲ云ノ森ノ神トスルモノハ誤ル  
風土記引トコロハ阿拜郡穴師山ノ神社ナリ今阿拜郡ニオイテ事蹟  
ヲ失フトイヘト穴師社ハ本國ノ式社ニシテ此森ニ祭ルニハ非ス

黒山鷹小屋

按布引山奥馬野領ニアリ昔此地ニ周圍二丈許ノ樞ノ巨樹アリ所謂  
黒山ノ大樞是ナリ慶安年中鶯コノ樹ニ巢造ル是ヲ護リシ穴小屋ノ  
フト三所アリ今其所ヲ鷹小屋ト云其巨樹今ハ亡シ

左妻岩窟

按中馬野村ニアリ中古洪水ニ没シ今其所ヲ詳ニセス昔此巖窟ニ神  
アリ馬ヲ愛シテ横根山ノ溪流ニシバ馬ヲ洗ヒ左妻馬洗淵自餘ノ字今猶存  
人間ニ應按スルコト里俗ノ口碑ニ遺リ葛城一言主ノ談ニ類ス其鄙諺  
取ルニタラストイヘニ福地某ナルモノ此邑ニアリテ鎌倉將軍家へ  
馬ヲ獻シ古來本邑ノ名馬ヲ出スコトヲ白スニヨツテ牧馬ノ命ヲ蒙リ  
又伊賀次郎重國モ名馬ヲ本邑ヨリ獻シ風土記駿馬ノ牧アルヲ以  
シハ馬野ノ名ノムナシカラスナルナレル

阿波廢驛

按今廢ノ村トナリ元町ト号ク

廢佛乘寺

惣國風土記曰山田郡馬野郷佛乘寺寄田三十八東行基納經之地也

廢海東寺

准后伊賀記曰海東寺馬野村之東有玄寶僧都開基有名藤五百束

按坂下村ニカイヤシトヨブ寺址有是ナラン

廢國分尼寺

永閑伊賀名所記曰山田郡國分寺酒解の里ニあり是尼の行所也國分寺  
の鐘絶侍る伊賀守仲教重而寄進ありけるよシ縁起ニ侍るなり

按今坂下村ニ國分寺屋鋪ノ地名アリ然レニ地域儼然タル堂舎ノア  
ルヘキ所トモミヘズ且阿拜郡ニ尼寺ノ舊址アレハコノ寺址及ヒ安

國寺址ハ皆國分安國ノ子院ニシテ退隱ノ僧ナトノ幽棲ナルモシルヘ  
カラス

廢安國寺

永閑伊賀名所記曰向しく安國寺も此所ニ侍る安國寺のいまさたか  
ニ侍る事也

按舊址詳ナラズ井關山ノ謠曲ニ國分安國兩寺ノ僧ノ廣瀬川原ヤ此  
山云云トアレバ永閑カ云ヘル如ク兩寺程遠カラスアリシニヤ

廢念佛堂

圓光大師行狀曰俊乘房重源念佛を信仰のあまりの故山上の醍醐  
無常臨時の念佛をすゝめて末代の恒規とくそのほか七箇所ニ不斷念  
佛を興隆せられき同又曰七ヶ所不斷念佛ハ或傳説云東大寺念佛堂  
高野新別所播广淨土寺醍醐舊址道場伊賀大佛道場  
大坂渡邊道場周防阿彌  
陀寺是爲ニ七ヶ處ニ云

按富永村ニアリ俗念佛堂山ト云東大寺古文書ニ念佛堂庄八十一町  
九段ト云是ナリ

廢上來寺

按律宗ノ大寺ムノ青春山ト号ス天正兵火ニ亡ヒテ本尊今廣德寺ニ  
安ス

廢金剛寺

按礎石地名尙存ス山ヲ七丘七谷ト云又赤白黒色ノ石アリ

廢長樂寺

按地名存ス共ニ上友生村ニアリ

土産

松茸千月 溪鱈魚野田出後 蕎麥 獨活 狗脊 茅栗共阿波 山鳥

廢砂(運地村)  
川野 廢柿

蒟蒻 菜子油

鴨 鰻魚子 馬野廣瀬 旗野等出 鰻魚 鱈魚 刺々鳥 馬野村出 蒟蒻 蔓藤 俱上阿波村出  
柳 馬野郷及 富永村出

製造

濱麻 村

按味他ニ勝ル以テ例置トス

紙粘

按谷ウツ木ノ龜皮ヲ去テトル之ヲニベト云

五倍子 山藥 桑白皮 木通 葭薄 芍藥 共上阿波村製

氏族

高橋東人

今昔物語曰今昔伊賀國山田郡噉代ノ里ニ高橋ノ東人ト云フ者アリ家

大ニ富テ財ニ飽キ滿タリ死タル母ノ恩ヲ報セムカ爲ニ心ヲ發シ法華經ヲ寫シ奉テ供養云云 實物集曰伊賀國ノ山田ノ郡ノ民ハ母ノ牛ニ成ケルヲ法花經ヲ供養ノ畜生道ヲマヌカレサセ

按引トコロノ二書事怪誕ニ涉ルトイヘル東人ノ本邑ニ貫スルヲ證センガタメコノニ舉ク

山田庄司行末 同小三郎伊行 或作 惟之

平治物語曰安藝守ノ郎等伊賀國ノ住人山田小三郎伊行生年二十八堀河院ノ御宇嘉承三年正月廿六日對馬守義親追討ノ時故備前守殿ノ眞先掛テ公家ニモ奉被知シ山田庄司行末カ孫也

按並ニ鳳凰寺村ノ居民ナリ

平田家次 或作 作繼

百鍊抄曰治承四年十二月一日伊賀國住人平家次 冠平田 追討近江國逆



賊輩之由言上東鑑云平田太郎家祖入道

同貞能

百鍊抄曰元曆元年七月十九日乙巳今日於近江國官軍與伊賀伊勢凶徒筑後前司貞能兄平田入道已下合戰凶徒敗績

同貞純法師

盛衰記曰壽永三年七月九日伊賀國山田郡住人平田四郎貞純法師

按家次貞能貞純ハ伯仲叔ナリ並ニ平田ノ居民ニシテ今平田屋敷ト云城跡アリ

流寓

天皇大友

本朝帝皇系譜曰大友皇子本名伊賀本朝太政大臣始天智十五任太政大臣母者子娘伊賀采女大日本史曰天皇大友幼

名伊賀皇子天智帝長子也母伊賀采女宅子娘爲人魁岸奇偉天性明悟風範弘深眼中精雄博學通古有文武才幹唐使劉德高見而異之曰殿下風骨不尋常人實超貴國之分

按駐蹕ノマ馬野村土俗ノ口碑ニアリ

女流

宅子娘

大日本史后妃傳曰宅子娘伊賀采女也生帝大友日本紀

僧侶

俊乘坊重源

按本郡馬野村ノ人ニシテ俗姓ハ阿波氏壯年ノ頃城州宇治郡醍醐寺ノ子院俊乘坊ニ居シテ密法ヲ學ヒ後ニ西京ノ石像寺ニ住シテ法然ニ

日本紀曰(上卷)  
權伊賀采女宅子  
生伊賀皇子履宇  
曰大友皇子  
皇胤紹運錄曰本  
友皇子母宅子姬  
元明天皇諱阿閉  
母越智姬  
陵墓一隅抄曰天  
智妃伊賀采女山  
田郡郡司女大友  
母宅子姬

親炙シ其後東大寺ノ大勸進トナリテ大佛殿ヲ再興シ十六年ノ後建  
仁二年阿波ノ新大佛ヲ建久二年六月五日寂ス八十六歳法然傳ニ  
ハ建久六年六月六日ニ寂スト云俱ニ此説信シカタレ紀氏系圖ヲ考  
フルニ其先木菟宿禰ヨリ出テ宿禰ヨリ十七世紀長谷雄長谷雄ヨリ  
十七世ノ孫池別當季輔季輔ノ男從五位下瀧口左馬允季重ニ三人ノ  
子アリ一ヲ季良二ヲ季康三ヲ重定出家シテ重源ト云是ナリ又東大  
寺庫ニ收藏スル重源ノ置文ト云モノアリ建久八年六月十五日云々  
又同年十二月八幡大菩薩云々ノ自筆ノ存スルアレハ此後ニ没セテ  
レレト明ケン

15  
3  
41

